

■スポーツ健康科学部 2027年度入試概要（予定）

※以下の入試概要は変更される場合があります。
詳細は入学試験要項（AO選抜：6月下旬、一般選抜：10月下旬発行予定）で確認してください。

募集人数 **235名** ※募集人数は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜等の合計です。

Webからダウンロード可能 [立命館](#) [入試情報サイト](#) [検索](#)

入試方式				試験科目・概要	試験地
総合型選抜	AO選抜	CREA方式	グローバル・アスレティックトレーニング型	【第1次選考】書類選考 【第2次選考】プレゼンテーション、個人面接	びわこ・くさつキャンパス
			教員熱望型		
			課題発見・解決 UNITE Program®型		
			数学的素養 UNITE Program®型		
一般選抜	全学統一方式（文系）		【外国語】（配点：120点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【国語】（配点：100点）現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究（漢文の独立問題は出題しません） 【選択科目】（配点：100点） 政治・経済、日本史（日本史探究）、世界史（世界史探究）、地理（地理総合・地理探究）、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数列）、数学C（ベクトル））から1科目選択		① ② ③
	理系型3教科方式		【外国語】（配点：150点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【数学】（配点：150点）数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数列）、数学C（ベクトル）） 【理科】（配点：100点）物理（物理基礎、物理）、化学（化学基礎、化学）、生物（生物基礎、生物）から1科目選択		
	学部個別配点方式文系型		【外国語】（配点：150点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【国語】（配点：150点）現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究（漢文の独立問題は出題しません） 【選択科目】（配点：100点） 政治・経済、日本史（日本史探究）、世界史（世界史探究）、地理（地理総合・地理探究）、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数列）、数学C（ベクトル））から1科目選択		
	学部個別配点方式情報型（文系）		【外国語】（配点：100点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【国語】（配点：100点）現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究（漢文の独立問題は出題しません） 【情報】（配点：120点）情報Ⅰ		① ③
	共通テスト併用方式		【外国語】（配点：100点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【国語】（配点：100点）現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語（いずれも近代以降の文章のみ） 【大学入学共通テスト受験科目】（配点：100点）数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用		
	後期分割方式	共通テスト併用3教科型	【外国語】（配点：100点） 英語（英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ） 【国語】（配点：100点）現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語（いずれも近代以降の文章のみ） 【大学入学共通テスト受験科目】（配点：100点）数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点1科目を採用		①
	共通テスト方式	7科目型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計900点） 外国語、国語、数学（配点：各200点、合計600点）と公民、地理歴史、理科、情報から高得点3科目を採用（配点：各100点、合計300点）		大学入学共通テストの得点のみで判定
		5教科型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計700点） 外国語、国語（配点：各200点、合計400点）と数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点3科目を採用（配点：各100点、合計300点）		
		3教科型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計600点） 外国語（配点：200点）と国語、数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点2科目を採用（配点：各200点、合計400点）		
	共通テスト方式（後期型）	4教科型	【大学入学共通テスト受験科目】（配点：合計600点） 外国語、国語（配点：各200点、合計400点）と数学、公民、地理歴史、理科、情報から高得点2科目を採用（配点：各100点、合計200点）		
試験地			①埼玉（大宮）・東京・横浜・金沢・名古屋・滋賀（草津）・京都・大阪茨木・大阪南・神戸・広島・高松・福岡 ②札幌・仙台・福井・松江・山口・松山・北九州・熊本・鹿児島 ③千葉（柏）・静岡・浜松・三重・和歌山・姫路・岡山・大分		

※各入試方式の出題範囲等は、入学試験要項で確認してください。

2027年度の入学試験に関する最新の情報・入試日程については
右記のURL（立命館大学入試情報サイト）より確認してください。

<https://admission.ritsumeikai.ac.jp>



▶ **立命館大学スポーツ健康科学部公式WEBサイト**

<https://www.ritsumeikai.ac.jp/shs/>



x.com/spoken_rits/
学部イベントや受験生向け情報などの
最新情報を随時発信しています



<https://www.facebook.com/rits.spoken/>
スポーツ健康科学部の日常をご紹介します



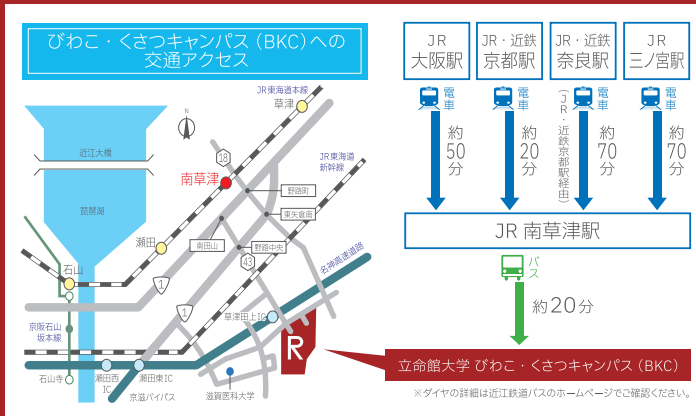
RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

〈お問い合わせ〉

びわこ・くさつキャンパス
BKC学部・研究科事務室（スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科教育課程支援）

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
TEL. 077-561-3760

+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学



Ritsumeikan University College of Sport and Health Science

2027



立命館大学

スポーツ 健康科学部

Collaboration Resiliency Edge Attraction



健康と幸福、世界の平和を探究する 「スポーツ健康科学」

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造することを目指します。

スポーツサイエンス領域

科学と実践の融合を通じた スポーツパフォーマンスの向上

スポーツパフォーマンス向上に資する生理学 / 生化学 / 力学 / 工学領域の最先端知見やその融合について学びます。スポーツパフォーマンスの向上に資する専門的知識と実践力を身に付け、加えて他領域の学びとの連携の中でスポーツ健康科学の未来を拓きます。

健康運動科学領域

身体活動を通じた人々の幸福、 豊かな生活の実現

人々の幸福、豊かな生活を実現する上で「礎」となる健康科学の理論と実践を担う学問領域です。健康の維持・増進に関する運動・身体活動や栄養の効果およびメカニズムを学んだ上で、個人や地域社会における健康問題、健康ニーズを把握し、人々の生活の質（QOL）の向上や疾病および傷害予防に貢献します。

4つの領域を横断し 学際的に学ぶ



スポーツ教育の^{いま}現・^{ここ}場から、 人と社会を共に育む

文化・歴史・哲学・倫理等の人文学とスポーツ教育学・コーチング学・スポーツ心理学・栄養スポーツ教育学等の社会科学におけるスポーツ教育学分野に関する理論や最新の知見を学びます。スポーツ教育の実践を基盤としながら、人と社会を他者や他分野と共に育みます。

つながる・つなげるマネジメント

社会や組織、スポーツ、人がつながり合う・紡ぎ合うために必要な哲学・考え方や戦略について学びます。新しい社会や組織のあり方、そしてスポーツの新展開を「創造」し、それを「発信・実現」します。

スポーツ教育学領域

スポーツマネジメント領域

MESSAGE FROM DEAN



立命館大学
スポーツ健康科学部 学部長
真田 樹義

スポーツ健康科学は、スポーツと健康を融合した学問です。スポーツは様々な競技スポーツだけではなく、ウォーキング、筋トレ、ストレッチなどのエクササイズ、中学・高校での体育の授業やパーソナルトレーニング、スポーツ観戦なども含まれます。一方、健康は「からだ」と「こころ」、「社会とのつながり」のより良い状態（ウェルビーイング）です。ウェルビーイングは世界の人々の全員の願いであり、生きがいや幸福の土台となるものです。つまり、スポーツ健康科学部は「スポーツを通じて人々を幸せにする」学部といえます。本学部での学びを通じて、社会課題の発見・解決に挑戦してください。皆さんの未来を大いに期待しています。

学部ビジョン

“CREA”に込める想い…

スポーツ健康科学部では、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造し、志高く未来を拓く人を育てたいと考えています。そのため、学部では、“CREA”というビジョンを掲げて、皆さんのキャンパスライフにおける様々な学修活動を推し進める方向性を示しています。“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味をもったラテン語“creare（クレアーレ）”を語源にもつ現代イタリア語で「創造」を意味する言葉です。それぞれの頭文字には、“Collaboration（異分野を紡ぐ）”“Resiliency（主体的に挑む）”“Edge（智を極む）”“Attraction（ひとと組織が輝く）”という想いが込められており、皆さんには、“CREA”を体現できる人になってもらいたいと思います。



普通に生活するだけで 体脂肪も血糖値も下がる アスリートの競技能力を向上させてきた 低酸素の環境を利用して、すべての人を健康に



トップアスリートが、酸素濃度の薄い高地でトレーニングを行うことは多くの人が知っているでしょう。低酸素環境での運動が、体内でエネルギーを作り出す能力や持久力を高めるからです。しかし最近の研究で、低酸素の環境は、そこにいるだけで体重や体脂肪が減ったり、血糖値が下がったり、動脈硬化を防いだり、誰にとっても有益な健康効果がある可能性が注目されています。スポーツジム、オフィス、学校、いずれは家庭でも。低酸素環境下で生活するだけで健康になれる日は来るのでしょうか。さまざまな企業と協力しながら研究を進める後藤一成先生に聞きました。



後藤 一成 教授

将来はAIが低酸素メニューを
提案する日が来るかもしれません

詳しい記事はWEBでご覧ください



「乳酸は疲労物質」はもう古い 筋肉や脳のエネルギー源 競技力アップにもつながる「乳酸」の話



普段スポーツをしない人でも「乳酸」という物質の名前は聞いたことがあるでしょう。疲労物質、あるいは筋肉痛の原因物質だと思っている人がいるかもしれません。しかし、それは大なる誤解であり、乳酸はむしろ身体や脳に良い影響を与えてくれていることが最近の研究によって明らかになってきました。

乳酸が身体に与える影響とはどのようなものなのでしょう？運動と栄養が身体へ及ぼす作用の解明を通して健康増進や競技力向上をサポートする橋本健志先生に、最新の知見を聞きました。



橋本 健志 教授

運動時に筋肉から出てくる乳酸は
実は「万能薬」なのです

詳しい記事はWEBでご覧ください



あなたの “？” が世界を変える

探究心

人はなぜ健康でありたいと願うのか

人はなぜアスリートのパフォーマンスに熱狂するのか

あなた自身の「生きる」「楽しむ」を見つめ直すことからスポーツ健康科学部の学びは始まっています。

身近な生活から生まれたあなたの問いが、人類を、社会を、変えるかもしれない。

未来を創るスポーツ健康科学部の学びを紹介します。



海外の体育から考える 日本の体育の特徴とは？ 開発途上国の文化・環境に応じた体育授業を 探求し、社会課題の解決にもつなげる



学校に行く機会に恵まれない児童生徒も多い開発途上国では、他教科に比べて体育は軽視されがちだといいます。しかし、体育授業には、目標を達成するためチームで協力し合ったり、本気で人を応援したり、試合の後にチームで振り返ったことを発表し合ったり、社会でも生きるさまざまな学びがあったことを、日本で教育を受けた人なら実感しているのではないのでしょうか。環境や道具の整わない開発途上国で、地域の文化や状況に合った体育科教育を行い、将来につながる子どもたちの力を伸ばすにはどうすればよいのでしょうか。カンボジアやペルーでフィールドワークを続けながら、開発途上国の体育科教育について研究する山平芳美先生に聞きました。



山平 芳美 准教授

日本の教師研修システムで
世界の授業をより良く

詳しい記事はWEBでご覧ください



引っ張る？サポートする？ 個人が成長し、チームとしても 高い成果を上げるためのリーダーシップとは？



スポーツ選手にとって、チームの雰囲気やチームメイトとの人間関係は、競技へのモチベーションや技術の向上、精神的安定にも関わるものではないのでしょうか。そして、それらを左右するのが、チームをリードする監督やキャプテンの存在です。

今の時代、どんなリーダーが、どんなリーダーシップを発揮することが、個人の成長を促し、チームとしての高い成果にもつなげられるのでしょうか？関係性リーダーシップとチーム力向上に関する心理学研究を行う山浦一保先生に聞きました。



山浦 一保 教授

リーダーシップに必要なのは
「黄金の2軸」です

詳しい記事はWEBでご覧ください



競技で得た学びを、より多くの人の健康へ “ウェルビーイング”の学びが拓いた未来

科学的な視点が競技との向き合い方を変えた

私は関東出身で、入学当初は友達づくりや一人暮らしに不安を感じていましたが、新入生の学生生活をサポートするオリターやアカデミック・アドバイザー※の先輩方にサポートしていただきました。手厚いサポートにより充実した学生生活をスタートすることができた経験から、進級後は自身も1回生の学習支援に携わりました。部活は陸上競技部に所属し、ハーフマラソンをはじめとする長距離種目に取り組んでいます。トレーニング科学のゼミで運動生理学について学んだことで、これまで経験的に行っていたトレーニングの目的や効果を科学的に理解できるようになり、競技への向き合い方も大きく変わりました。熱中症予防や睡眠、疲労回復など、コンディショニングに関する知識も身につけ、自身の競技に還元するだけでなく、部活動の仲間に情報を共有する機会も増えています。

企業との共同研究で学びが実践につながる

ゼミでは大手スポーツブランドとの共同研究に被験者として参加しました。真夏を想定した高温環境でランニングを行うなど大変な実験でしたが、研究成果が商品開発につながっていく過程を間近で見ることができ、貴重な体験となりました。このように、本学部は企業との共同研究も盛んで、学びが実社会につながる実感を持てる機会が数多くあります。卒業後はメーカーやゼネコンなど、ものづくりを通して社会に貢献できる仕事に携わりたいと考えています。本学部で学ぶ中で、人々の健康や幸せを総合的に捉える「ウェルビーイング」という考え方に強く共感するようになりました。今後は、学部で培った知識や経験を生かしながら、人々が身体的にも精神的にも豊かに暮らすことのできる社会づくりに貢献していきたいと思っています。

※先輩学生が1回生の学習支援を実施する学部独自の学生団体

高橋 早大 さん 4回生
西武学園文理高等学校卒

SPORT SCIENCE

スポーツ健康科学部 で見つけた未来

STUDENT VOICE

女性アスリートの力になりたい スポーツを多角的に学ぶ中で見つけた将来の目標

スポーツサイエンスだけではなく、心理学や栄養学も学べる面白さ

スポーツ健康科学部に入学して驚いたのは、学びの幅広さです。学部名からスポーツサイエンスを専門的に学ぶイメージを持っていましたが、実際には心理学や教育学、栄養学など、さまざまな視点からスポーツや健康について学ぶことができます。これまで自分が考えたことのなかった角度からスポーツを捉えられるようになり、学ぶほどに興味の幅が広がっています。現在は女子ラクロス部でミッドフィルダーとして活動しています。同じポジションには実力のある選手も多く、思うような結果が出ないこともあります。が、「一度始めたことは最後までやり遂げる」と決めて競技に向き合っています。また、育成係として後輩の指導にも携わっています。本学部のPBL(課題解決型学習)で培った、「自ら課題を見つけて解決する力」は、後輩の成長を支える場面でも役立っていると感じます。

女性アスリートの悩みに寄り添う研究者を目指して

ゼミでは、女性アスリートの「月経時のパフォーマンスとコンディショニング」をテーマに研究しています。月経は身体的な不調だけでなく、精神面にも影響を及ぼします。私自身も無月経を経験したことがあり、同じような悩みを抱える女性アスリートの力になりたいという思いから、このテーマを選びました。研究を進める中で出会ったのが、トップアスリートを支援するJISS(国立スポーツ科学センター)です。研究成果を実際の競技現場に還元できる環境に大きな魅力を感じ、将来はJISSのような施設や、食品メーカーの商品開発部門で働くことを目標にしています。本学部には幅広い学びの領域があります。興味なかった分野から新しい発見が生まれたり、学んだことが自分の競技や生活に結び付いたりすることも少なくありません。自分の可能性を広げたい人にはおすすめの学部です。

高橋 伶 さん 3回生
神奈川県立希望ヶ丘高等学校卒

HEALTH AND EXERCISE SCIENCE

国内外で活躍できるアスレティックトレーナーを目指して チアダンスの経験を学びと研究につなげる

同じ目標を持つ仲間とともに学ぶ GATプログラム

私は5歳の頃からチアダンスを続けています。競技生活の中で、けがをした時や大会ではアスレティックトレーナーの方々に支えていただく機会がありました。その経験から、「自分も選手を支える側になりたい」と思うようになり、GATプログラム※のあるスポーツ健康科学部に進学しました。GATプログラムでは通常の学部の授業に加えて、アスレティックトレーニングに関する専門的な授業を英語で受講しています。決して簡単な道のりではありませんが、同じ目標に向かって努力する仲間が支えとなり、学び続けることができています。本学部では、授業で学んだ内容について自身で調べ、考えをまとめる機会が多くあります。その過程で論文を読む習慣が身につく、物事を多角的に考えられるようになりました。学べる領域も横断的で非常に幅広く、自分の興味や可能性を主体的に広げることができていると感じます。

ダンサーに適した「補食」を研究する

現在はスポーツ栄養学のゼミで、競技中のパフォーマンスを支える「補食」について研究しています。野球やサッカーなど、競技人口の多いスポーツでは多くの研究が行われていますが、チアダンスに適した補食についてはまだ十分なデータがありません。そこで私は、自身の競技経験も生かしながら、ダンサーに必要な栄養や食事のあり方を明らかにしたいと考えています。今後は米国公認アスレティックトレーナーの資格を取得し、アメリカの高校や大学で経験を積むことが目標です。将来的には日本に戻り、多くのスポーツ選手を支えていきたいと考えています。本学部には「やる時は本気でやる」学生がたくさんいます。普段の授業でも活発に発言し、意見を交わし合い、前向きに挑戦する雰囲気があります。やりたいことが明確な人はもちろん、まだ見つからない人も、ここでの学びや仲間との出会いを通して、自分が挑戦したいことを見つけれれると思います。



天池 紗梨 さん 3回生
平安女学院高等学校卒

ゼミで深めた学びをアカデミック・アドバイザーの活動で実践 人と向き合う経験が、将来の視野を広げてくれた

自ら問いを立て、考え、深める学び

小学生の頃からサッカーを続けてきたこともあり、スポーツを多角的な視点から学ぶことのできる本学部へ進学しました。実際に入学してみると、心理学やマネジメント、教育など、幅広い分野の学びに触れる機会があり、自分の視野が大きく広がったと感じています。現在はゼミで組織心理学やリーダーシップ論について学んでいます。特に印象的だったのは、「自ら問いを立てる」ことを重視する学びのスタイルです。3回生の時には、ゼミ生12名で「どのようなリーダーシップが、チームメンバーの積極的な発言や行動につながるのか」というテーマを設定し、研究を行いました。高校までの学びは知識を身につけることが中心でしたが、大学では自ら考え、主体的に学ぶ姿勢が求められます。自分で問いを立て、さまざまな論文や研究成果をもとに考えを深めていく経験を通して、物事を深く考える力が身についたと感じています。

将来の目標につながる実践経験

2回生からはアカデミック・アドバイザーとして、1回生の大学生活を支援する活動を行いました。私自身、入学当初に先輩アドバイザーの支援を受け、不安なく大学生活をスタートできた経験があり、「次は自分が後輩を支える側になりたい」と思ったことが活動を始めたきっかけです。3回生では団体の執行部として、後輩アドバイザーのサポートや組織運営にも携わりました。運営では、熱量の高いメンバーだけで進めるのではなく、一人ひとりの意見を丁寧に聞き取りながら、全員が納得感を持って活動できることを意識していました。この経験を通じて、誰もが安心して関われる環境を作ることの大切さを実感しました。そこには、ゼミで学んだ組織心理学や心理的安全性にも通じるものがあります。こうした学びや経験を重ねるなかで、人や地域を支える仕事に関心を持つようになり、卒業後は公務員として地域の人々に寄り添いながら、スポーツを通じた健康増進や地域活性化に取り組みたいと考えています。



藤原 淳稔さん 4回生
滋賀県立東大津高等学校卒

SPORT PEDAGOGY

SPORT MANAGEMENT

※立命館大学の学士号と提携先米国の大学院の修士号を取得し、米国におけるアスレティックトレーナーの資格取得を目指す独自の留学プログラム(P8参照)

「理論と実践」の学びを通じて、 社会で活躍するための基礎力を養成する

特色ある学び・プログラム

PBL (Project/Problem Based Learning)

スポーツ健康科学の学びを社会に応用する

PBLは、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用し、課題解決に挑戦する授業です。2年生の期間を通じ、スポーツ健康科学のテーマで自分たちのプロジェクト活動をつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関わるアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクト、スポーツチームの広報企画やチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4年生の専門演習（ゼミ）・卒業研究に結実させていくことができます。

【過年度プロジェクト抜粋】

ビジネスプランコンテストに挑戦/草津市教育委員会「小中学校体力向上プロジェクト/島根県隠岐島児童・生徒スポーツ促進プロジェクト/東レアローズ(SVリーグ)ホーム戦PR/「大学スポーツを応援する文化」の醸成・促進と観戦者増大プロジェクト/いい(e)ヘルススポーツを考えよう！/スポーツを通じて世界の輪を広げよう！/スポーツ×VR/筋肉が喜ぶ食事メニュー作成/イオンモールで自然に健康になれるプロジェクト/スポーツ心理学の理論と実践知を活用したニーズとミッションのサービス化に挑戦/地域スポーツ科学センターを利用するアスリート・一般の方向けの体力向上プロジェクト/運動トレーニングによる認知症予防 他



PBL 詳細はこちら

PBLプロジェクト
の活動報告を掲載
しています。



系統的なカリキュラムで低年生時には基礎的学力を鍛えるだけでなく、1年生秋学期より専門的な科目を学び始め、スポーツ健康科学部の総合的・学際的な理解を深めます。2年生ではPBL（課題解決型学習）科目で実践力と主体性を磨きます。4つの領域（スポーツサイエンス領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領域・スポーツマネジメント領域）からなる領域科目を横断的に学び、「理論」と「実践」の学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践します。3年生からはゼミ（専門演習）に所属し、スポーツ健康科学のテーマを探求し、資格取得などに挑戦しながら、卒業時には全員が4年間の学びの成果を卒業論文にまとめます。

グローバル・アスレティックトレーニング(GAT)プログラム

立命館大学の学士号と米国大学院の修士号を取得し 米国公認アスレティックトレーナーの資格取得を目指す独自の留学プログラム

GAT プログラムは、アスレティックトレーニング教育認定委員会（The Commission on Accreditation of Athletic Training Education、以下 CAATE）に認可されたアスレティックトレーニング教育プログラムを保有する米国の大学院への進学・留学を積極的に支援する本学部独自の画期的なプログラムです。GAT プログラムは、4年生春学期終了時までに立命館大学の卒業に必要な科目の修得を終え、夏ごろから提携先の米国大学院へ留学し、立命館大学の学士と各大学院の修士を取得することで、米国公認アスレティックトレーナーの資格認定

試験の受験資格を得る事ができるよう設計されています。最大の特徴は、立命館大学で修得した科目が各大学院進学のための先修要件として認められるということです。これにより、通常個人で留学する場合と比較して、短い期間で修士号まで取得してアスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事が可能です。



プロフェッショナル・キャリア形成科目

キャリア形成と学びの融合

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけ、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

WEB上に詳細情報を掲載しています

GATプログラムの詳細やアスレティックトレーナーとは何か、そしてGATプログラム卒業生のインタビュー等を紹介しています。



自然科学と社会科学を網羅した総合的な視点からスポーツと健康にアプローチします。

回生			1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		大学院進学	就職
セメスター			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
学びの流れ			将来へ向けて視野を広げ、経験する		「進路」へのイメージを掴む		進路選択へ向けてキャリアを考える		キャリア形成の確立・研究成果の発信			
基礎科目	外国語科目		英語科目 (Project)1 英語科目 (Skill Workshop)1	英語科目 (Project)2 英語科目 (Skill Workshop)2	英語科目 (Project)3 英語科目 (Skill Workshop)3	英語科目 (Project)4 英語科目 (Skill Workshop)4						
	基礎科目	講義	スポーツ健康科学原論 ヒト・ひと・人の倫理と哲学 身体の構造と働き ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)	スポーツ健康科学とデータサイエンス スポーツ健康科学と未来								
		演習	基礎演習 I	基礎演習 II								
専門科目	領域科目	スポーツサイエンス領域		スポーツサイエンス概論	バイオメカニクス論	スポーツ生理・生化学		トレーニング科学 パフォーマンス測定評価方法論	スポーツ情報科学			
		健康運動科学領域		健康運動科学概論	健康運動栄養・生理学	運動・栄養処方論		健康運動評価方法論 スポーツ医学	生活習慣病論			
		スポーツ教育学領域		スポーツ教育学概論	インクルーシブ体育・スポーツ論	スポーツコーチング論		スポーツ栄養教育学 スポーツ心理学	スポーツ教育実践学			
		スポーツマネジメント領域		スポーツマネジメント概論	組織心理学	ビジネス戦略論		マーケティング論 リサーチメソッド	ソーシャルイノベーション論			
		演習										
融合科目	領域融合											
プロフェッショナル・キャリア形成科目			簿記入門		スポーツ健康科学セミナー インターンシップ(国内・海外) サービスマーケティング クリニカルATインターンシップ (国内・海外)	エクササイズプログラミング 実習 I		学校保健学 エクササイズプログラミング実習 II スポーツ指導実習A(球技：ゴール型) スポーツ指導実習A(球技：ネット型) スポーツ指導実習A(武道) スポーツ指導実習B(器械運動) スポーツ指導実習B(陸上競技) スポーツ指導実習B(水泳) スポーツ指導実習B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)				

※正式な科目区分・科目名ではなく、分かりやすい名称に置き換えて表記している場合があります。内容は予定であり変更の可能性があります。

3 回生		4 回生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
進路選択へ向けてキャリアを考える		キャリア形成の確立・研究成果の発信	

トップレベルの教員陣が、 高度な教育・研究活動を展開

高度な研究実績を持ち、国内外においてスポーツ健康科学分野をリードする教員陣が
専門分野の域を超えて有機的に連携し、高度な教育・研究を実践しています。

スポーツサイエンス



長野 明紀 教授

【専門分野】
スポーツサイバネティクス・
スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】
人体の運動制御のメカニズムに関する研究、
運動機能向上のための工学的支援

身体運動の原理原則の解明

人体の運動力学、バイオメカニクスの研究を軸に、運動の原理原則の解明に力を入れています。経験的に良いとされる身体の使い方で、まだ科学的に立証されていないものは多くあります。これはアスリートによるスポーツの動作にも、一般の人による日常生活動作にも当てはまります。近年の計測機器や解析技術の進化により、分析できる対象や動作が広がってきました。

現在、最先端の動作解析技術、コンピューターシミュレーション技術、仮想現実・拡張現実の技術を使って研究を推進しています。アスリートや一般の人の運動機能と運動効率を高め、競技成績や健康状態の向上に貢献することを目指しています。



家光 素行 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】運動および栄養
摂取が競技力や健康に及ぼす
効果と機序解明に関する研究



伊坂 忠夫 教授

【専門分野】応用バイオ
メカニクス・スポーツ科学
【研究テーマ】スポーツ競技力
ならびに日常生活を高めるた
めの応用バイオメカニクス



後藤 一成 教授

【専門分野】トレーニング科学
【研究テーマ】競技力向上およ
び健康増進のためのトレーニ
ングやコンディショニングに
関する研究



塩澤 成弘 教授

【専門分野】生体医学・
スポーツ工学
【研究テーマ】スポーツ・健康・
医療分野の生体計測センサ/
デバイスに関する研究



藤田 聡 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】効率的な骨格
筋肥大を目的とした運動と栄
養摂取に関する研究



菅 唯志 准教授

【専門分野】運動生理学・
スポーツ科学
【研究テーマ】ヒトの身心パ
フォーマンスを高める総合
型スポーツ健康科学研究

健康運動科学



村上 晴香 教授

【専門分野】
行動生理学、運動遺伝学
【研究テーマ】
運動行動誘発を通じた
健康づくりに関する研究

運動行動の誘発メカニズムを知ること 運動を介した健康づくりの推進を

私たちは、“運動が健康によい”と認識しているながらも、それを行動として実行することや、実行できたとしても継続することには困難さを感じます。ヒトが運動行動を起こす場合、運動が“楽しい”“心地よい”といった内発的要因に加え、“運動を行うことで痩せる”“運動は健康によい”といった外発的要因などが関与します。この際、ヒトの生体内では、分子生物学的・生理学的なメカニズムの下、「運動行動」が認識・決定・実行されます。

人々が困難さを感じる「運動行動」について、その誘発メカニズムを解き明かすことで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢献を目指しています。



真田 樹義 教授

【専門分野】応用健康科学・
運動処方
【研究テーマ】生活習慣病
および介護予防のための運
動処方研究、異分野の連携
がもたらす価値創造



篠原 靖司 教授

【専門分野】スポーツ医学・
整形科学
【研究テーマ】機能解剖学
的アプローチによるスポ
ーツ傷害に関する研究



清家 理 教授

【専門分野】応用健康科学・
社会医学・老年学・医療福祉学
【研究テーマ】1.認知症の人と家族
に対する非薬物介入と効果検証(認
知症や抑うつ進行予防)
2.Community design for Diversity
& Inclusion and Well-being



橋本 健志 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】競技力向上や健
康増進のための有効な運動・
栄養処方の開発に関する研究



岡松 秀房 准教授

【専門分野】ウェルネス・
スポーツ傷害
【研究テーマ】学生アスリ
ートのウェルネス変動に伴うス
ポーツ傷害に関する研究



草川 祐生 助教

【専門分野】健康・スポーツ科
学、人間工学
【研究テーマ】神経科学およ
び形態学的視点からヒト足部
が果たす機能的役割を探索



塩澤 華奈 助教

【専門分野】運動生理学
【研究テーマ】運動時の呼吸
循環調節メカニズムの解明



田中 貴大 助教

【専門分野】スポーツバイオ
メカニクス
【研究テーマ】泳動作の推進
メカニズム解明を目的とした
バイオメカニクス・流体力学
研究



趙 寒暉 助教

【専門分野】ストレngths & コ
ンディショニング、電気生理学
【研究テーマ】筋力トレーニ
ングにおける主観的不快感の発
生メカニズムの解明、筋疲労
の定量化手法の開発



出口 美輪子 助教

【専門分野】栄養生化学、ス
ポーツ栄養学
【研究テーマ】健康増進と生
活習慣病予防に関する応用健
康科学的研究



一瀬 星空 特任助教

【専門分野】トレーニング科
学・運動生理学
【研究テーマ】運動・トレーニ
ングにおけるパフォーマンス
の向上と外傷の受傷メカニ
ズムに関する研究



堀内 元 特任助教

【専門分野】スポーツバイオメ
カニクス
【研究テーマ】野球のバッテ
ィングにおけるパフォーマンス
の向上と外傷の受傷メカニ
ズムに関する研究



森 理紗子 助手

【専門分野】運動生理・生化学、
分子栄養学
【研究テーマ】運動や栄養素が
運動器機能を調節するメカ
ニズムの解明

教員の経歴・受賞歴等（抜粋）

〈家光素行〉●日本サルコペニア・フレイル学会 優秀演題賞（高齢女性における習慣的な高強度レジスタンス運動と高たんぱく質摂取の併用が筋力・筋量および動脈硬化度に及ぼす影響）(2022)
〈伊坂忠夫〉●日本バイオメカニクス学会 学会賞（2024）
〈岡本直輝〉●日本ハンドボール学会 日本ハンドボール学会賞（男子ハンドボール日本代表の国際競技力向上に向けての課題：東京2020オリンピックに向けた取り組みを選手の視点から考察して）(2025)
〈長野明紀〉●日本バイオメカニクス学会 学会賞（2022）
〈藤田聡〉●アメリカ生理学会（APS）学会賞（2005年）
●アメリカ栄養学会（ASN）学会賞（2006年）
〈山浦一保〉●公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞（職場における妬み感情の緩和に向けた実証的試み—上司との関係性、感謝の気持ちで過ごす1週間の力は妬みの増幅を食い止める？—）(2022)
〈清家理〉●Geriatric & Gerontology International Best Article Award（2022）
〈大友智〉●京都造形体育学会 奨励論文賞（学会賞）（3つの賞・能力に関する体育授業評価尺度作成の試み：高等学校入学年次の次の年次以降を対象として）(2025)
〈真田樹義〉●京都造形体育学会 第155回大会 若手研究者奨励賞 最優秀賞（地域在住高齢者における社会的フレイルを考慮した認知と客観的認知機能との関係）(2026)
〈田中貴大〉●日本水泳水中運動学会 最優秀論文発表賞（水中ドルフィンキックにおける上肢周りで生成される渦の大きさや泳速度との関係）(2022)
〈趙寒暉〉●NSCAジャパン S&Cカンファレンス2025口頭発表「最優秀賞」(オリンピック準備期間における縦断的速度モニタリング者・重量挙げN=1ケーススタディ）(2026)
〈高田 祐佑〉●European Association for Sport Management Conference 2023 ESMQ New Researcher Award (Winner)(2023)

スポーツ教育学



海老 久美子 教授

【専門分野】
スポーツ栄養学・栄養教育学
【研究テーマ】
栄養的支援と食教育の効果についての
研究

「食×スポーツ×地域」で、未来をおいしく豊かに

人々の豊かな食生活・食卓を探索することは、自分自身の食生活を幸せにすることにもつながります。おいしく豊かな食生活は、それぞれの地域で育まれた食文化なしには成り立ちません。例えば、高齢者のサルコペニアの予防、ジュニアアスリートの健全な成長と競技力向上などに対して、地域の食文化から持続可能な支援するための食環境整備や食品・料理の開発など、地域と連携した様々な取り組みを行っています。



上田 憲嗣 教授

【専門分野】発達発達学・
スポーツ教育学
【研究テーマ】子どもの身体
と運動の発達発達と体育・ス
ポーツ指導に関する研究



大友 智 教授

【専門分野】スポーツ教育学・
体育科教育学
【研究テーマ】スポーツ指導場
面・体育学習場面における教授・
学習に関する研究



岡本 直輝 教授

【専門分野】コーチング
【研究テーマ】競技力向上に
関するコーチング研究



永浜 明子 教授

【専門分野】臨床哲学、インクル
ーシブ体育・スポーツ、アダプテ
ッド体育・スポーツ、学校保健学
【研究テーマ】「ひとについて
の問い、インクルーシブおよび
アダプテッド体育・スポーツの
あり方、運動が苦手な児童・
生徒の体育づくり



河井 亨 准教授

【専門分野】大学教育学・学
習論、キャリア形成
【研究テーマ】「大学生の学び
と成長」に関する理論的・実
証的・実践的研究



笹場 育子 准教授

【専門分野】スポーツ心理学・
スポーツ教育学
【研究テーマ】競技力向上を
目的としたメンタルトレーニ
ングの効果およびスポーツにお
ける対人援助に関する研究



山平 芳美 准教授

【専門分野】スポーツ国際開発
学・スポーツ教育学
【研究テーマ】諸外国におけ
るスポーツおよび体育科教育に
関する研究

スポーツマネジメント



長横 仁 教授

【専門分野】
スポーツマネジメント
【研究テーマ】
スポーツとまちづくり、組織に
対する支援の波及性

スポーツが有する価値を まちづくりに活かす

人々の身体と英知が奏でるスポーツという行為が、スポーツをする人のみならず、それを観戦する多くの人たちを魅了していることは、いうまでもありません。またスポーツが有するポテンシャルは、関係が希薄化する地域社会の人と人とのつながりを再構築したり、過疎化しつつあるまちの魅力をアップさせたりするなど、社会問題の解決やまちづくりにまで及びます。その一方で、スポーツやまちづくりは、人々の生活と密接にかかわりを持っているため、スポーツ団体だけでなく、行政、民間企業などが適切な政策や支援を施す必要があります。ひとつひとつ、ひとつとまち、まちとまちの関係をいかにデザインするかというマネジメントについて研究しています。



種子田 稔 教授

【専門分野】
スポーツマネジメント
【研究テーマ】プロスポーツビ
ジネスモデルの研究



山浦 一保 教授

【専門分野】産業・組織心理学
【研究テーマ】関係性のリー
ダーシップとチーム力向上に
関する心理学的研究



平井 祐理 准教授

【専門分野】経営学
【研究テーマ】企業における
データ活用に関する研究、
オープンイノベーションに関
する研究



安 邦 講師

【専門分野】スポーツマーケ
ティング・スポーツツーリス
ム
【研究テーマ】スポーツ消費者
経験のビジネスおよび社会的
アウトカムに関する研究



高田 祐佑 講師

【専門分野】スポーツ&ツー
リズムマネジメント
【研究テーマ】スポーツやツー
リズムにおける体験価値と消費
行動の研究（なぜ人はスポーツに
魅了され、どんな旅をし、何を
得るのか？）

英語科目担当教員



祐伯 敦史 教授

【専門分野】神経言語学
【研究テーマ】言語理解や
習得のプロセスについて研
究・解明する



生駒 万貴 講師

【専門分野】アメリカ研究（高
等教育・ジェンダー研究）、英語
教育
【研究テーマ】米国の女子大学
におけるジェンダー包摂に関
する研究、大学英語教育にお
ける性の多様性に関する実践
的研究



池本 優 特任助教

【専門分野】心理言語学
【研究テーマ】人が語の形や
意味をどのように理解して
いるのかを探索

教員情報（詳細）はこちら！

教員の研究内容等詳しい情報は、
「スポーツ健康科学部ウェブサイト」

スポーツ健康科学部 立命館

検索



社会人基礎力とグローバルな視野を 備えた人材には、 多様な進路が広がっている



山口 礼華 さん

ミズノ株式会社
グローバルデジタルDTC統括本部
リテイル販売部 ゴルフ販売課
2026年3月卒業

幅広い学びと挑戦の日々が、 ミズノで働く今につながっている

ミズノ株式会社に直営店舗の運営に関わる仕事をしています。商品の配置や売場作り、在庫管理などを通して、店舗全体の売上や運営を支える役割です。お客様や現場のスタッフと接点を持てる唯一の部署であることが、現在の仕事の醍醐味だと思います。

もともとスポーツが好きで、「スポーツに関わる仕事がしたい」という思いはありましたが、入学当初は具体的にやりたいことまでは決まっていませんでした。立命館大学のスポーツ健康科学部を選んだのは、スポーツサイエンスやマネジメントなど幅広い分野を学ぶことができ、良い意味で「迷える環境」に魅力を感じたからです。

学生時代に特に印象に残っているのは、トレーニング科学のゼミでの研究です。私は「運動と入浴が睡眠に及ぼす影響」をテーマに、被験者の心拍数や睡眠データを記録・分析しながら研究を進めました。最初は分からないことも多く、不安を感じる場面もありました。しかし、大学院生がマンツーマンでサポートしてくださる体制があったので、とても心強かったです。また、ゼミの先生も親身に支えてくださり、最後まで研究をやり遂げることができました。

さらに、ゼミではグループワークやプレゼンをする機会も多くありました。先生から丁寧にフィードバックをいただき、自分の良い部分を言葉にして伝えていただけたことは、大きな自信につながっています。

スポーツ健康科学部での学びを通して、興味があることには躊躇せず、とにかく挑戦してみようという姿勢が身につきました。

教職課程や健康運動指導士の学びなど、幅広く経験できたことは私の可能性を大きく広げてくれたと感じています。今後は、人々の健康づくりをサポートするような仕事にも挑戦していきたいと考えています。学生時代に広がった興味や学びを大切にしながら、自分自身も成長を続けていきたいです。

卒業生の声 VOICE01



鍵村 拓哉 さん

サントリーフーズ株式会社
首都圏営業本部 首都圏支社 量販営業二部
2016年3月卒業

「やってみなはれ」の精神で営業の最前線へ 学部で培った挑戦心でキャリアを切り拓く

首都圏営業部で営業を担当しています。どうすれば商品を手に取っていただけるのか、売場担当者の方と会話を重ねながら日々試行錯誤しています。また、サントリーは副業を後押しする文化があるため、起業家向けのコンサルティングにも取り組んでいます。

スポーツ健康科学部では、さまざまな学生団体の活動に参加していました。特に印象に残っているのは、学部全体を巻き込んだ運動会を企画した時のことです。当時は団体を立ち上げたばかりでノウハウがなく、百人以上の熱中症対策や協賛集めなど、課題が山積みでした。それでも企画書を書いて飛び込み営業を行い、大手製薬会社からスポーツ飲料や栄養食品をご提供いただいた時の感動は、今でも忘れられません。

ゼミでは、組織論や心理学を学んでいました。卒業論文は「新規ビジネスにおける重要な因子の分

析」というテーマだったのですが、これは以前所属していたブランド開発事業部の業務と深くつながっていると感じています。社内外の人々と連携して販路を拓いていく行程は、新規ビジネスを立ち上げるプロセスによく似ています。また、現在の営業の仕事でも、人や組織の行動を理解するための組織論や心理学の知識が役立っており、学部での学びが実社会でも活かしていると実感しています。

サントリーには「やってみなはれ」という理念があります。これは、私にとってスポーツ健康科学部の精神とも重なっています。少しくらい大口を叩いても、まずやってみる。すると応援してくれる人が現れて、形になっていく。この学部には、挑戦する人を応援してくれる環境があります。もし今、「何かに本気で挑戦してみたい」と思っているなら、スポーツ健康科学部はその一歩を後押ししてくれる場所になると思います。

卒業生の声 VOICE02



© 2022 BenVanHouten

山本 和広 さん
シアトル・マリナーズ
マニュアルセラピスト
2019年3月卒業

関連する資格など
● 中学校教諭一種免許状（保健体育） ● 高等学校教諭一種免許状（保健体育） ● 健康運動指導士※1 ● 健康運動実践指導者※1 ● 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※1 ● 初級バラススポーツ指導員※1 ● トレーニング指導者※1 ● BOC-ATC（the BOC credential of “Athletic Trainer Certified”：米国公認アスレティックトレーナー）※2
※1 申請資格、または認定試験の受験資格が得られます。 ※2 受験資格を得るため、米国提携先大学院へ進学し、修士号を取得する必要があります。

卒業生インタビュー

スポーツだけじゃない。卒業後の進路。
2025年にスポーツ健康科学部は15周年を迎え、学
び成長した卒業生が様々な分野で活躍しています。
<https://www.ritsumeikai.ac.jp/shs2022/activities/>

総合的・学際的な学びを通し、専門知識とその関連領域の幅広い基礎知識を養い、
理論と実践の融合したカリキュラムで身につけた社会人基礎力やグローバルな視野を
備えた人材は、さまざまな分野での活躍が期待されます。

異色の経歴を生かし、メジャーリーグで 野球選手のサポートに励む

選手を最も近くで支えられるATC（米国公認アスレティックトレーナー）に興味を持ち、GATプログラム※に参加しました。通常の授業に加え、アスレティックトレーナーに関する知識を英語で学ぶのは大変でしたが、慣れてくると非常に楽しかったです。3回生の時には留学生専用のBKC国際寮で住み込みのスタッフとして働き、自らを英語漬けの環境に置くことで海外生活のイメージを膨らませていきました。

2018年に渡米し、その2年後にATCの資格を取得。サーカスをはじめとするパフォーマンスのサポートに興味があったため、スポーツ現場以外にもBall State Universityのダ

ンス演劇学科などで経験を積みました。

現在はシアトル・マリナーズでマニュアルセラピストとして働いています。パフォーマンスのサポートを経験したことで、ほかのトレーナーにはない視点で選手をケアできることが私の強みです。スケジュールも、求められる成果も、非常にタフな現場ですが、その中で選手が好成績を残せるよう最善を尽くし、チームの勝利に貢献することが今の私の目標です。

この学部は自分の積極性次第で可能性が広がっていきます。ぜひ皆さんもやりたいことにチャレンジしてみてください。

※ATCの資格取得を支援する立命館大学スポーツ健康科学部独自のプログラム（P.8参照）

卒業生の声 VOICE03

就職分野と実績

スポーツ関連企業

(株)アシックス・ミズノ(美津濃)(株)・グンゼスポーツ(株)・(株)ゴールドウィン・ゼビオ(株)・セントラルスポーツ(株)・つるや(株)・デサントジャパン(株)・(株)ドーム・HOS(株)・(株)ビバ・山本光学(株)・(株)楽天野球団・(株)モンベル・ブリヂストンスポーツ(株) 他

教職員・公務員

国家公務員一般職・地方公務員(上級職)・京都府教育委員会(小学校・中学校)・京都府教育委員会(小学校)・長浜市役所・高知県教育委員会(中学校)・滋賀県教育委員会(小学校)・守口市役所・滋賀県警察本部・三田市役所・京都府庁・警視庁・東京消防庁 他

サービス

出光興産(株)・大阪ガス(株)・関西電力(株)・(株)NTTドコモ・静岡ガス(株)・北海道電力(株)・中部電力(株)・北海道旅客鉄道(株)・西日本旅客鉄道(株)・九州旅客鉄道(株)・伊藤忠商事(株)・三井物産(株)・豊田通商(株)・日本航空(株)・全日本空輸(株)・(株)オリエンタルランド・日本電気(株)・(株)野村総合研究所・(株)オービック・楽天(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・伊藤忠食品(株)・Apple Japan合同会社・(株)リクルート 他

食品

(株)アサヒフードアンドヘルスケア(株)・エスビー食品(株)・カゴメ(株)・(株)ブルボン・(株)ヤクルト本社・ハウスウェルネスフーズ(株)・キリン(株)・サントリーホールディングス(株)・味の素(株)・日清食品(株)・伊藤ハム(株)・アサヒビール(株)・ハウス食品(株)・山崎製パン(株)・(株)ロッテ 他

医療

武田薬品工業(株)・第一三共(株)・アステラス製薬(株)・塩野義製薬(株)・シスメックス(株)・ゼリア新薬工業(株)・東レメディカル(株)・日本赤十字社・ロート製薬(株)・久光製薬(株)・大塚製薬(株)・Meiji Seika ファルマ(株)・小林製薬(株)・旭化成(株) 他

メーカー

パナソニック(株)・キヤノン(株)・テルモ(株)・(株)キーエンス・味の素(株)・(株)デンソー・(株)豊田自動織機・住友電気工業(株)・(株)LIXIL・(株)ワコール・日本たばこ産業(株)・京セラ(株)・豊田合成(株)・(株)ファーストリテイリング・帝人(株)・富士通(株)・花王(株)・オムロン(株)・日本精工(株)・マツダ(株)・積水化学工業(株)・(株)村田製作所・トヨタ自動車(株) 他

金融・保険

(株)香川銀行・(株)京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫・(株)滋賀銀行・住友生命保険(相)・(株)第一ライフグループ(株)・日本生命保険(相)・三井住友海上火災保険(株)・(株)三井住友銀行・明治安田生命保険(相)・(株)三重銀行・(株)三菱東京UFJ銀行・(株)みずほフィナンシャルグループ・野村證券(株) 他

マスコミ

(株)ADKホールディングス・(株)エフエム東京・(株)京都放送・(株)TBSテレビ・(株)ディリースポーツ・東映(株)・東海テレビ放送(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・(株)博報堂プロダクツ・びわ湖放送(株)・(株)フジテレビジョン・(株)USEN 他

大学院進学

スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程

最先端の教育・研究環境が、高度で充実した学びをサポート

最先端の教育・研究を実現するため、高度な研究に欠かせない充実した施設・設備を保有しています。興味のある研究を深めるために、学部生のうちから、このような環境を存分に利用することができます。



1 スポーツパフォーマンス測定室

野球やゴルフ、ランニングなどのスポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数の「ハイスピードカメラ」を設置しており、投げたボールの回転をスローモーションで観察するといった相対分析もできます。

2 エネルギー代謝測定室

「壁面のセンサ」で人間の1日の正確なエネルギー消費量を測定することが可能です。

3 低酸素実験室

低酸素環境下でのトレーニングが身体に与える影響を解析することができます。

4 栄養調理実習室

システムキッチンや調理器具が整っており、競技力向上につながるメニューや栄養価の高い料理などを実際に調理することが可能です。またダイニング部分は、子どもから高齢者までを対象とした「食育」を実践する場として活用します。

5 スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人間の体型を3次元で瞬時に解析する「3次元人体計測システム」など、多様な機器を設置しています。

6 スポーツ健康コモンズ

通年使用可能な25m公認プール(温水)7レーン、50mの屋外プール4レーンを設置した体育館は、実習科目や測定実験等で利用することが可能です。

7 トレーニング指導実習室

トップアスリートの筋力増加を想定した各種「トレーニングマシン」や「フリーウエイト機器」を完備。現場におけるトレーニング技術の習得をめざします。

8 MRシステム・骨密度測定装置

人間の体内の状態や脳内の働きを調べることができる「MRシステム」、骨密度や体脂肪、除脂肪量などの体組成を推定する「骨密度測定装置」を設置。これらを利用して、スポーツ健康科学分野に関連した高度な研究ができます。日本のスポーツ健康科学関連の施設では、国立スポーツ科学センターに並び、最新鋭の設備となります。

奨学金

学生を全面的にサポートする充実の奨学金制度

立命館大学では豊富な独自奨学金を設け、学業はもちろん、スポーツ活動、留学など、自分の目標にチャレンジする学生を幅広くサポートしています。本学独自の給付制奨学金のほか、日本学生支援機構や公的機関・民間団体などの各種奨学金制度が充実。

→ 詳しくは立命館大学入試情報サイトをご覧ください。 [立命館](#) [入試情報サイト](#) [検索](#)